



■品種の特長

トマトベリーの甘く、肉厚でトマト臭さの少ない、子供達が大好きな食味はそのままに、ご家庭で栽培を楽しんでいただく為に開発した品種です。直径3cm程度のハート形の果実が収穫できます。

■モデル作型 ▲定植 雨よけ 〰️収穫 ■

地域	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一般地					▲	〰️	〰️	〰️	〰️	〰️	〰️		

(作型は一例です。適宜調整して栽培してください。)

■栽培のヒント

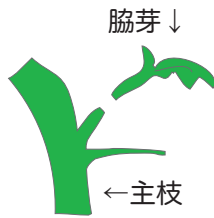
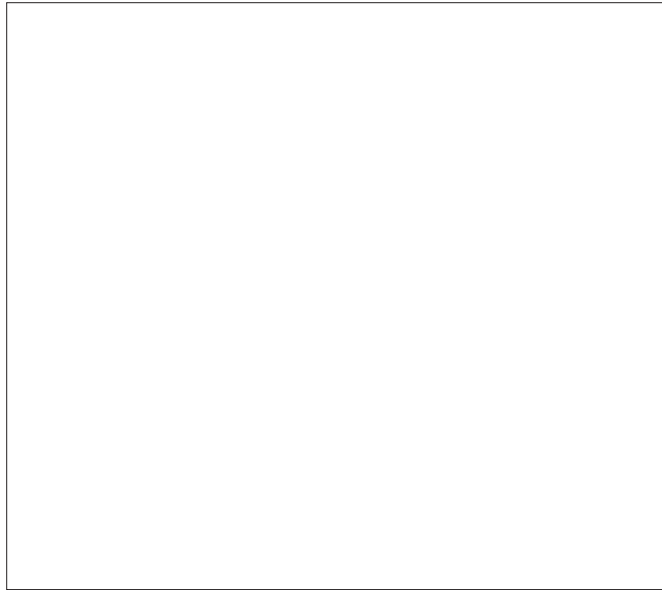
★定植 60cmのプランターに最大2株程度、30cm程度の鉢には1株植えます。深めの鉢の方が夏場の水管理は楽になります。

支柱を立てて倒れないように誘引します。丸く誘引しても、フェンス等に這わせても育てられます。定植後しばらくすると、脇芽が出てくるので、適宜摘み取り樹を充実させます。

★施肥 元肥は少なめに4段目の開花後、樹勢をみながら、化成肥料を2週間おきに追肥し樹勢を保ちます。トマトは樹が育ちながら実をつけるので肥料や水と日光を十分に与えることが必要です。

★手入れ 高温時には朝のうちに軽く花を揺するなど、受粉を助けると着果が良くなります。急激な水分変化は果実の割れを引き起こしますので、雨よけ栽培をお勧めします。幹に近い果実から赤く色付いてきます。完熟させて収穫します。収穫の終了した房以下の葉は取り除き、風通しを良くします。

植付け場所見取り図



脇芽↓

←主枝

●脇芽の摘み取り

ハサミなど使わず、手で折り取ります。放っておくと主枝と同じような太さになって、管理しにくくなります。

●定植の向き

一定方向に花が着くので、管理しやすい方向（一般的には通路側）に花房を向けて定植すると良いでしょう。



あんどん仕立例

鉢栽培の場合、生育後半には、根が鉢一杯に育ち根詰まりをおこしてきます。そうすると、株元の茎から気根が出てくる場合もあります。兆候がみられたら、鉢の内壁の土をシャベルや棒などで軽くほぐしたりしてやると、空気が入り新しい根が生える余地が出てきてリフレッシュできます。

日付 作業記録 (追肥、手入れ、状況)

